

生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。なお、試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方（もしくは代理人の方）にご了承いただけない場合は研究対象から除外いたしますので、下記【問い合わせ先】までお申し出ください。

【研究課題名】	Closed loop 型小腸腸閉塞の原因鑑別における CT 診断に関する後ろ向き検討		
1. 研究の目的と方法	腸閉塞は腸の中身が通らなくなってしまう病気で、お腹の外科領域でよくみられる救急疾患の一つです。腸閉塞の原因には主に2つのタイプがあり、一つは過去の手術などで腸同士がくっついてしまい腸の通りが悪くなる「癒着性腸閉塞」、もう一つは腸の一部が体内の隙間に入り込んでしまい腸が詰まってしまう「内ヘルニア」があります。この2つの病気は治療方法が大きく異なり、癒着性腸閉塞では点滴などの保存的治療を行い様子をみながら手術を検討しますが、内ヘルニアでは腸が壊死する危険性が高いため緊急手術が必要になります。現在、腸閉塞の診断にはCT検査が広く使われており診断の精度も高いのですが、特に「closed loop」と呼ばれる腸が輪のように閉じた状態を示す場合、どちらのタイプかを正確に判断することが困難なことがあります。この研究ではCTの画像を詳しく分析することで癒着性腸閉塞と内ヘルニアを正確に区別できる方法を見つけることを目的としています。		
2. 研究期間	倫理委員会承認日～2026 年 12 月 31 日まで、研究の実施を予定しています。		
3. 対象となる方等	附属病院で 2009 年 5 月 1 日～2025 年 6 月 30 日までに小腸腸閉塞の診断で開腹手術が施行され、治療前に CT 撮影が施行され、CT で closed loop の所見を示していた方。		
4. 研究に利用する試料・情報について	(1) 試料の種類	試料は使用しません。	
	(2) 試料の取得の方法	試料は使用しないため、該当しません。	
	(3) 情報の種類	年齢、性別、疾患名、治療内容、治療経過、画像データ	
	(4) 情報の取得の方法	診療録や画像診断システムからデータを収集します。	
5. 研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。 試料・情報は、(3) の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。		
	(1) 研究責任者または研究代表者	研究機関名	東京慈恵会医科大学放射線医学講座
		氏名	矢ヶ部 浩之
	(2) 当施設の長	東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥	
	(3) 試料・情報の管理責任者	(1)の研究責任者と同じ	
	(4) 共同で研究を実施する機関とその責任者	この研究では共同で研究を実施する機関はありません。	
6. 試料・情報を他機関とやり取りすることについて	この研究では、外部の機関と試料・情報をやり取りすることはありません。 情報の利用開始予定日：2025 年 9 月頃～		

【問い合わせ先】	機関名：東京慈恵会医科大学放射線医学講座 研究責任者：矢ヶ部 浩之（やかべ ひろゆき） 電話：03-3433-1111（内線：2131） 対応時間：平日 9:00 ～ 17:00
-----------------	--

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。

研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。

※なお、本研究は研究対象者より直接同意を得て研究を行うことが困難であるため、本研究に関する情報をホームページ上で公開し、研究参加を拒否できる機会を設ける。